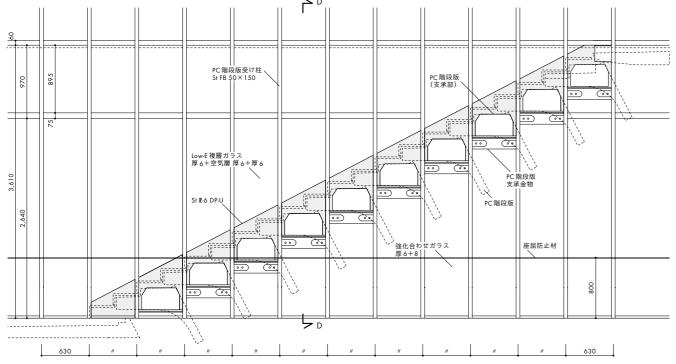
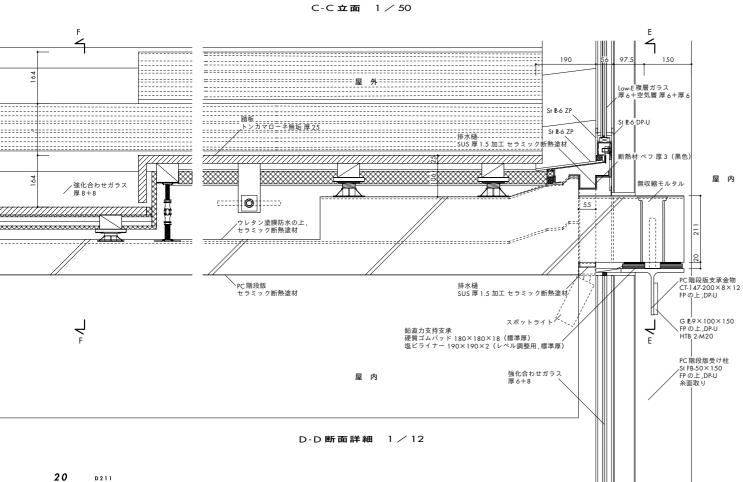
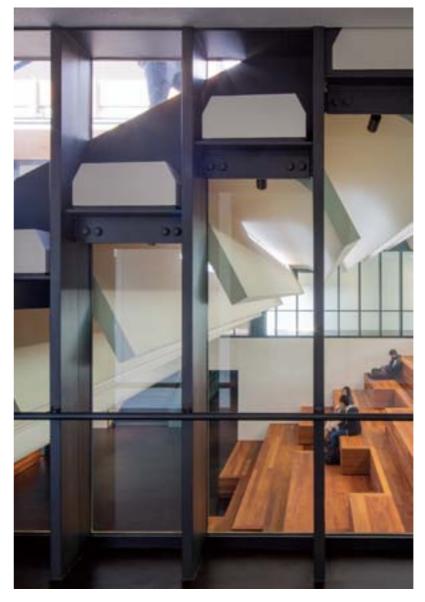


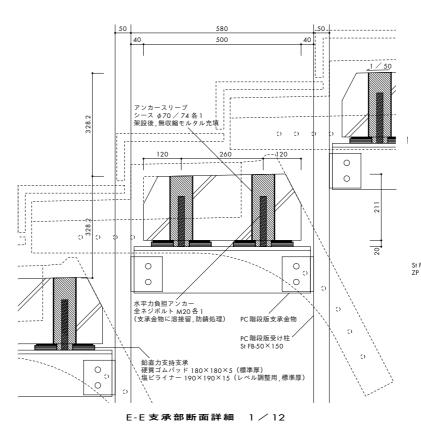
山並みから連なり、建物中央を横断し、レベル差のあるキャンパスをつな ぐ、下部に階段状のパブリック空間をもつ大階段。昼間は柔らかい光を室 内に導入、夜は内部照明が階段を浮かび上がらせる。大階段の構成材はプ レキャスト・プレストレストコンクリートである。S造でロングスパンの PCを受けようとすると、中地震時の層間変位が20mmあり、通常のささ ら形式では屋根としての止水性能を確保することができない。外装カーテ ンウォールのスチールマリオンをPC版1段ごとの支持材とし、層間変位 を細分化する構造形式を採用することで、シールの追従性をクリアし、止 水性を満たすと同時に、浮遊感のある大階段を実現している。結露防止の ためにPC表面にセラミック断熱塗料をコーティングし、内部空間では床 吹出しと蹴込み部スリットのリターンによる居住域空調を行っている。

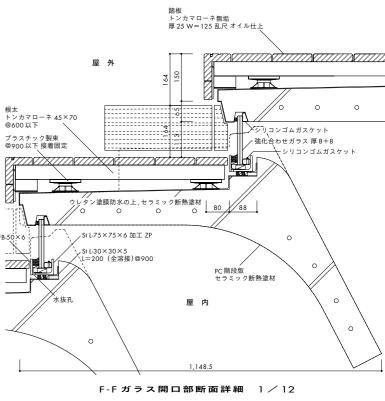


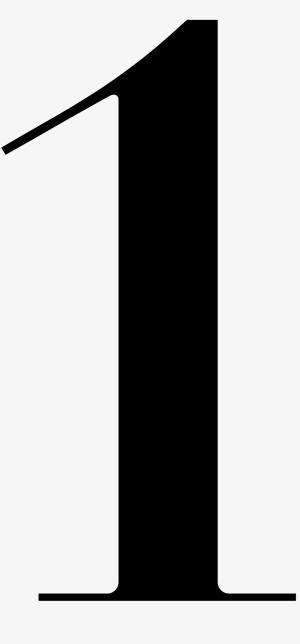












手嶋 まず、設計全般に言えることだと思うのですが、 設計には道理があると思っています。たとえば、窓を なぜつくるのか。それは通風や換気のためであったり、 眺望のためであったりするわけです。

そういった道理から考えますと、晴れの日ばかりで はありませんから、雨が吹き込まないように通風や換 気などができるようにするために庇を付けるわけです よね。まずはそういうところから出発したいと思って います。そうしたうえでデザインを考えたいと思って います。

甲村 私も気候風土と機能面から、軒を大きく出すこ ともあります。また、そこに住む人やまちを歩く人か らどう見えるかという目線を気にして、人と屋根の距 離がより近い平屋建てのときは「屋根を見せたい」と 思います。

私は屋根も外壁も住宅を構成する面の一部であると いう考え方でつくることが多いものですから、軒先の 雨樋のつくり方には常に気を遣っています。なるべく 樋が見えないようにして, 外壁面に映る軒先の影も美 しくしたいと考えていますね。

安藤 私たちは毎回同じ材料でつくるようにしていま す。同じ材料を使い続けたほうが精度を上げやすいで すし、自信をもてるからです。ですから、屋根は板金 で納めることが多くて、軒天はなるべく杉の赤身の部 分を使い,木材保護塗料で仕上げることが多いです。

手嶋 軒天について言えば、昔はよく合板をあちこ ちで見かけましたよね。でも耐久性の問題から、僕は なるべく合板は使いません。ただ、超ローコスト住宅 の設計をしていたときに、「劣化したら張り替えれば よい」という発想が生まれたことがあります。それは 自分の中での発見でしたね。

そうは言っても極限での発想なので、やはり雨がか りの部分に合板を使うようなことを軽々にやってはい けないと思いますが (笑)。

甲村 水対策は超撥水塗料が便利ですよ。私は軒天に 木材を使用する際はヒバが多いです。塗料の耐久年数 や日差しによる経年変色には気を遣いますが。

安藤 屋根勾配について言えば、1勾配から2勾配の 屋根が多いです。そうすると立はぜ葺きや立平葺きに なるのですが、できればはぜ先端は折り倒して前で唐 草と一緒に掴んで、できるだけハサミを使う回数を少 なくしてもらいたい。軒先を見たときにキャップを使 わずに板金小口が見えないようにしたいわけですが、 そんなことをやってくださる職人さんが最近は少なく なってきましたね。

座談

泉 幸甫

手嶋 保

安藤和浩 + 田野恵利

×

甲村健一

手嶋 板金を折って特注でやろうという発想そのもの がなくなってきて、職人も既成品頼みになっています から、面白くないですよね。

安藤 職人の世界では経験がすべてになってしまいま すが、腕をもった職人さんを探して、発展的な納まり やその場に応じた最小限の納まりを心がけます。

泉 僕は40代から50代初めくらいまでは、屋根に 銅板を結構使っていました。銅は柔らかいし、 職人が まだいましたからね。紙を折りながら折り紙みたいに して職人と一緒にどうしよう、ああしようと折り方を いろいろと打ち合わせし、また学ぶことができました。

僕は屋根の研究をしていて,大体の屋根は切妻と寄 棟の組合せで分類できます。美しい屋根を見ると、た とえばライトの自由学園や、アアルトのセイナッツァ ロの役場などは、屋根の形と勾配の関係をその切妻と 寄棟の組合せで絶妙に解いているのがわかります。

それから、その切妻と寄棟を複合しながら、できる だけ一枚のつながった屋根でつくりたいなと思ってい ます。ただ、いつも縦樋をどうするか困りますね。

安藤 樋がないものが理想ですけどね。

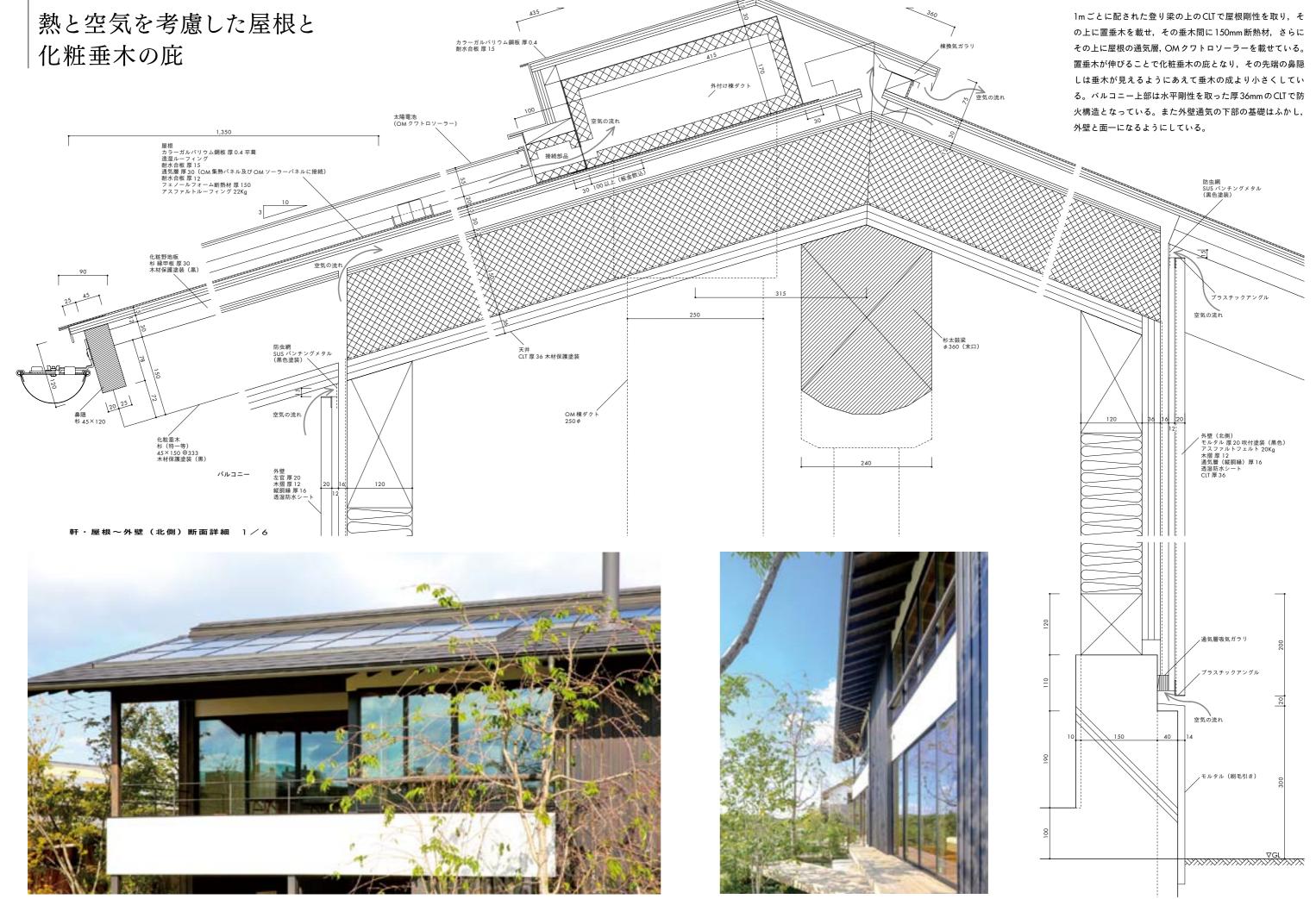
甲村 別荘地域のように高木があり落ち葉の多いとこ ろや、積雪の多い地域以外は基本的に樋を付けていま す。取付け箇所はファサード側を避けて目立たぬよう に壁面構成を考慮しますが、内樋にはしません。また 樋のサイズや勾配は近年の集中豪雨で雨水量が設計の 想定を超えないよう気を遣いますね。

泉 森の中では樋を付けずに、屋根から雨水を垂れ 流す場合もありますが、庇を相当伸ばし、基壇を設け、 砂利を敷き, 水跳ね, 湿気の対策をしている。お寺は まさにそうですね。

手嶋 僕は, 樋は やっぱりあるべきだ ろうとは思っていま す。吊り金物を見せ ないディテールを考 えたりした時期もあ りましたが、今はあ るものはきちんと見 せたほうが潔いかな という気がしていま す。樋は難しいで すね。



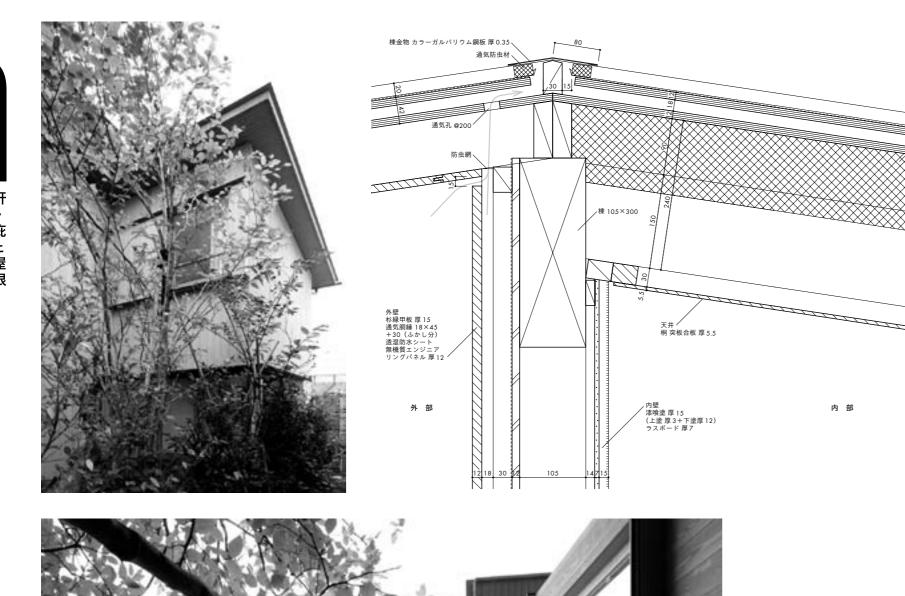




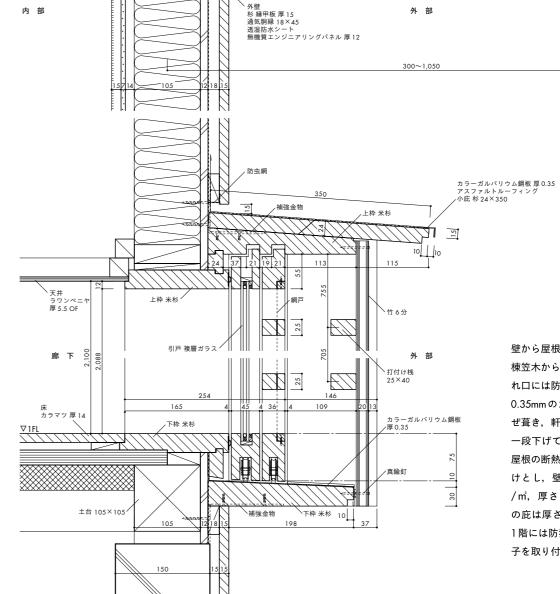
エ/手の家

64 D211 **65**

無理なく、まずは基本性能を確保する







屋根 カラーガルバリウム鋼板 厚 0.35 立はぜ葺 アスファルトルーフィング 23kg 巻 ラーチ合板 厚 12+通気翻縁 厚 18+針葉樹合板 厚 12 重末 90×45 @455+断熱材吹付 厚 120

破風 米杉 30×126′

軒桁

壁から屋根に通じる通気層を設け、屋根の棟笠木から排気している。各所通気の取入れ口には防虫網を設置した。屋根面は厚さ0.35mmのカラーガルバリウム鋼板を竪はぜ葺き、軒先・けらばの先端は主屋根から一段下げて、通しの軒先役物と取り合う。屋根の断熱は硬質ウレタンフォームを吹付けとし、壁面は高性能グラスウール16kg/㎡、厚さ100mmを充填した。窓まわりの庇は厚さ24mmの杉板で仕上げている。1階には防犯性を考慮して、竹を用いた格子を取り付けている。

通気孔 @200

広小舞 米杉

、軒天 サワラ縁甲板 厚 12 木材保護塗装

屋根けらば断面詳細 1/6

30

66 ...

D211 67

